NPO JCP
Japan Conservation Project

NPO JCP NEWS

No. 18・2008. 10.30

・甲斐市個人所蔵　幟旗（安永七年、安政四年）２旒　保存修理報告
・伏流水　日本における人材養成の現場から　東京学芸大学
・報告――JCP平成20年度定例総会、事業報告会
・会員の声「JCPインターンを終了して」
・書籍紹介　木川りか先生講演記録『文化財の虫菌害対策』～状況／環境に即した段階的プログラム～
・JCP事務局通信

幟旗

東京学芸大学キャンパス

甲斐市個人所蔵
幟旗（安永七年、安政四年）2旒
保存修理報告

はじめに

平成18年2月、当機構は甲斐市教育委員会から、甲斐市竜王在住の個人宅に伝わる江戸期の幟旗について、修復保存処置の相談を受けました。

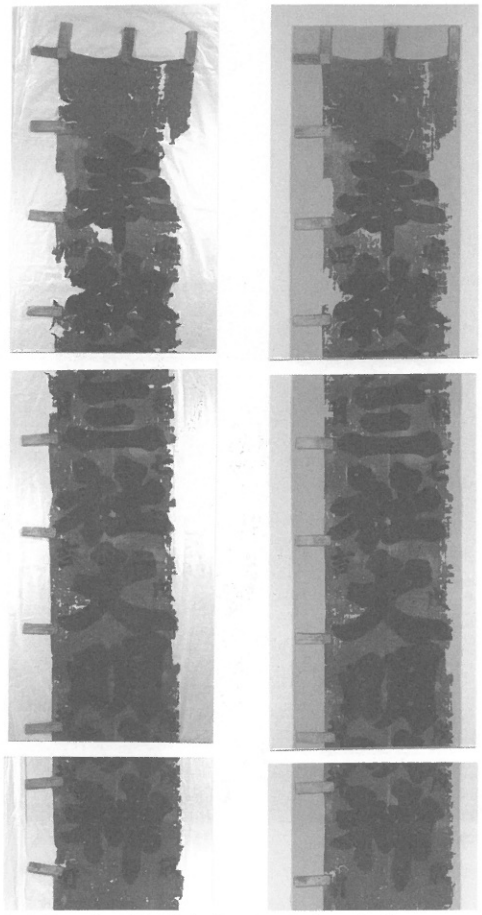
幟旗は2旒。笛吹市一宮浅間神社の大祭「おみゆき祭り」の際掲げられてきたもので、高さは5m近くあります。

1旒は安永七年（1778年）、もう1旒は安政四年（1857年）の銘があり、特に安永期の旗の損傷が進んでいました。甲斐市教育委員会は市の補助事業としてこの2旒の旗の保存処置を決定し、当機構が修復を委託されました。JCPは会員の染織品修復技術者何人かに見積もりを依頼しましたが、最終的には山梨県において実績がある㈱半田九清堂にお願いすることになりました。

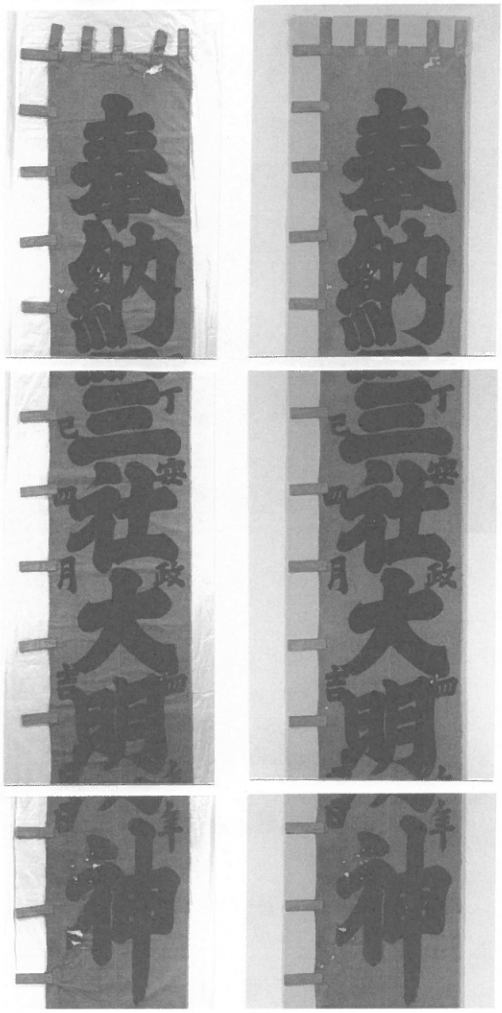
修理報告

形態および寸法

形　態　幟旗
員　数　2旒
寸　法
（安永七年）
修理前：高さ　484.2cm　幅　74.0cm
修理後：高さ　490.0cm　幅　75.2cm
　　：高さ　492.3cm　幅　76.8cm（土台布含む）
※いずれも最大値を記載
（安政四年）
修理前：高さ　520.0cm　幅　78.7cm
修理後：高さ　521.0cm　幅　78.7cm
　　：高さ　521.5cm　幅　82.2cm（土台布含む）
※いずれも最大値を記載



安永七年　修理前（左）修理後（右）・部分



安政四年　修理前（左）修理後（右）・部分

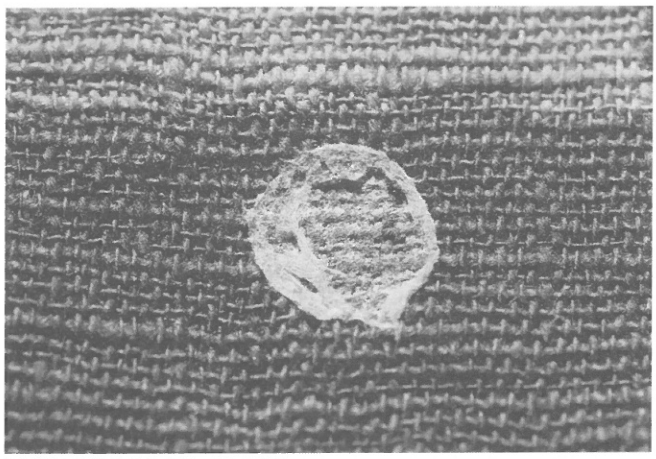


写真1　繭の痕と思われる痕跡

写真2

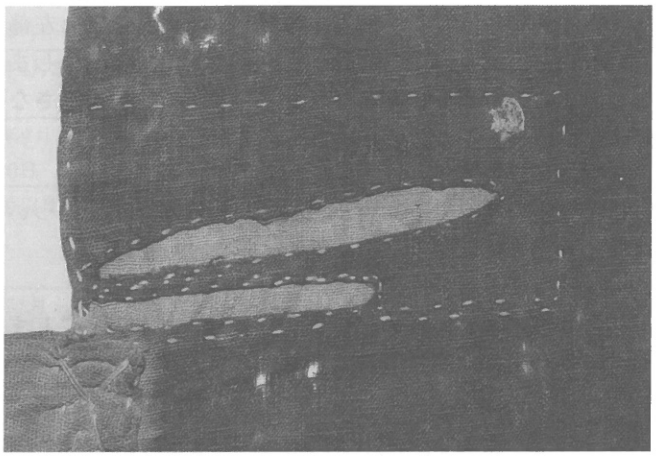


写真3

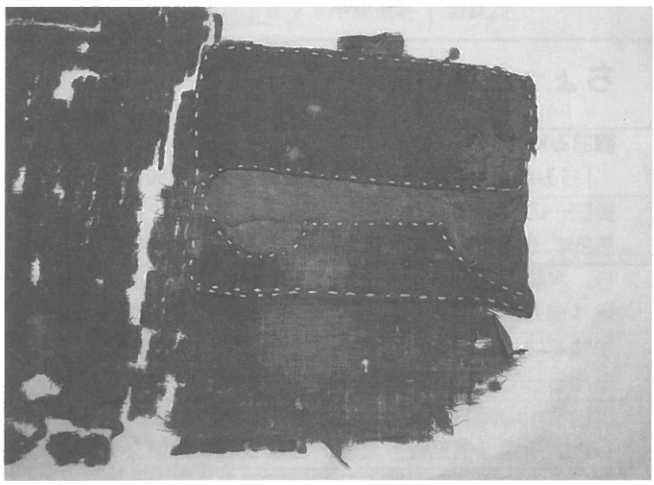


写真4

使用材料

（安永七年）

土台布：麻布　矢車・くぬぎ染め

留付糸：絹糸（14デニール）矢車染め、藍染め、くぬぎ、茜染め

土台布端処理：絹リボン　矢車染め

麻糸　矢車染め

（安政四年）

土台布：麻布　矢車・くぬぎ染め

留付糸：全体；麻糸　矢車染め、藍染め

部分；絹糸（14デニール）矢車染め、藍染め

木綿糸　矢車染め、藍染め

収　納（2旒とも）

桐材二段重印籠箱、中性紙布貼帙

損傷状況

幟旗として屋外で使用されていたため、全体的に汚れが目立っていました。保存状況による、きつい皺やめくれなどが多数見られました。

安永七年の銘のある幟旗は特に損傷が激しく、粉状化して全体が薄くなり崩れかかっている部分や、虫の糞や繭などと思われる付着物などもありました（写真1）。

○旧修理痕

双方に後年の修理跡がみられました（写真2・3・4）。

修理方針

安永七年銘のある幟旗は損傷が激しいので、旗として掲げて展示しないことを前提として、土台布に縫い留める仕様を選択しました。安政四年銘のある幟旗は比較的損傷が少ないので、掲げての展示に活用できるような仕様を工夫しました（特記事項参照）。

修理仕様・工程

①クリーニング

修理前の状態を調査・記録し、数種類の写真撮影を行いました。まず表面の付着物を除去しました。その後パッチテストを行い、汚れの移り具合や文字部分の定着具合を調べた結果、墨と藍が使われたと思われる文字は定着しており、安定した状態だったため、圧力をかけずに濾過水※によるクリーニングを行いました。

※濾過水：特殊フィルターにより、鉄分、塩素などを濾過除去した水

②布地の保護

・めくれや皺の強い箇所に部分的に湿りを加え、平らに伸ばし、本来の風合いを損なわないよう、圧力をかけずに乾燥を行いました。

・本体の地色に似せて染めた麻の土台布に、それぞれの傷み具合に合わせて麻糸、絹糸を使い分け、安全に固定しました。安永七年の旗は劣化が進んでいるため、留めつけには極細の絹糸を選択しました。土台布や糸はすべて植物染料で本体地色の染めに合わせて染め、用いました。安政四年の旗は、全体の留め付けには本体を支えるため麻糸を使用し、損傷部は部位の保護を考え絹糸を使用しました。

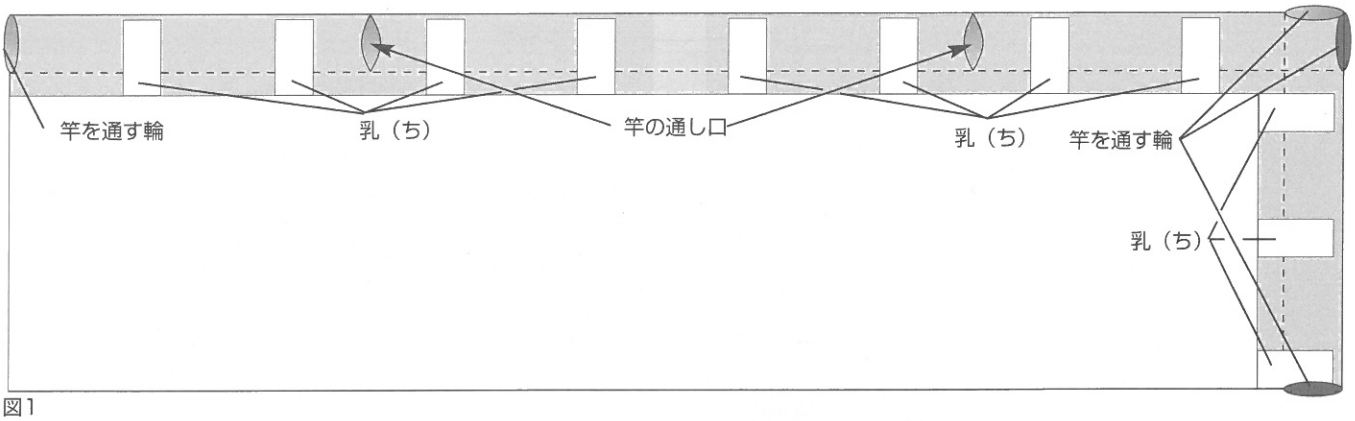


図1

【特記事項】

①安政四年の旗は展示活用を考慮し、土台布上部と左部（乳（ち）側）裏面を筒状に仕立て、横にも吊るせるようにしました。また、万が一にもオリジナルの乳（ち）の輪に竿を通さないよう乳（ち）の真ん中を縫い留めました（図1）。

②旧修理痕の処置

そのままの状態でも問題が生じる恐れがない部分については、過去の修理記録として残すよう処置しました。

③収納方法

折れや皺の予防のため、枕に巻きつける収納方法にしました。二つを同じ箱に収納できるよう二段重ねの桐箱を新調しました（写真5）。

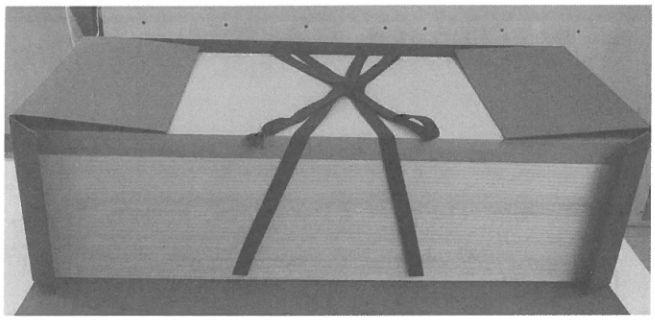


写真5

※乳（ち）：旗、幟、幕などの縁に、竿、綱、紐などを通すために付けた輪

「上記は、オリジナルの報告書をもとに、JCP事務局がまとめたものです」（文責：八木）

ちょっと寄り道

■おみゆき祭り

「おみゆきさん」として親しまれる「おみゆき祭り」は甲斐国一の大祭として、1000年以上の歴史を持ちます。天長2年（西暦825年）淳和天皇のとき、勅使をこの地に送り、水防祭を行ったのが始めと言われています。その名を残す御勅使川（みだいがわ）が釜無川に合流する地点で、かつては川が氾濫し、甲府盆地に流れ込んで甚大な被害をもたらしていたそうです。そこで約450年前、武田信玄は御勅使川の流れを変える大治水工事を敢行し、堤を築きました。所謂「信玄堤」です。お祭りはこの信玄堤で水防祭を行う為に甲斐国一宮、二宮、三宮のご祭神が堤近くの三社明神に神幸をするもので、一宮の浅間神社祭神が木花開耶姫であることから、祭りでは男衆が赤やピンクの浴衣を着、紅白粉で女装して御輿を担ぎ、「ソコダイ、ソコダイ」と独特の掛け声をかけて、堤を足で踏み固める動作で練り歩くようになったとのことです。現在この祭りは毎年4月15日、桜の季節に行われています。

参考　甲斐市公式HP

http://www.city.kai.yamanashi.jp/kankou/photo/omiyukisan.html

■竜王駅

平成20年3月24日、安藤忠雄氏設計による新駅舎が完成しました。ガラス張りの駅舎は、地方特産の水晶と武田信玄が治水の為に考案したという木製の「聖牛」をかたどっているそうです。

晴れた日には、駅から富士山、八ヶ岳や甲斐駒ケ岳が一望できます。

参考　東日本鉄道八王子支社HP

http://www.jreast.co.jp/HACHIOJI/station/49_ryuoh.html

■釜無川の「聖牛」

武田信玄が笛吹川、釜無川などの治水工事に際して考案したとされる木製構造物。木材を合掌型に組んで川中に沈め、流れがぶつかることによって水勢が弱まる働きをするもので、その姿が牛に似ているために「聖牛」と呼びならわされるようになったそうです。以来この「聖牛」は、河川工事の伝統工法として、現代まで用いられてきたということです。

参考／写真提供　特定非営利活動法人 地域資料デジタル化研究会HP

http://www.mmdb.net/usr/digiken/seigyu/page/A0001.html

■　！！お知らせ！！

山梨県立博物館において、平成20年12月17日から平成21年1月19日の会期で開催される「信玄堤」展において、安政の旗が出展されます（詳しくはP.11）。

第Ⅲ弾

東京学芸大学

教養学部　教養系　環境総合学科課程
文化財学科

この春、20期生となる新入学生を迎えた東京学芸大学の文化財科学専攻の取材をしてきた。大学は春休み中であったが、二宮修治教授（文化財保存科学専門）、荒井経准教授（日本画、保存修復専門）がインタビューに答えて下さった。

学生が立ち上げる自主ゼミのパワー

東京学芸大学の学部は「教育学部」ひとつである。その中に２つの教育組織があり、教育者としての学問を究める「教育系」と、広く教養を高める「教養系」とがある。文化財科学専攻は「教養系」の環境総合科学課程に属している。

文化財科学専攻の目的として「文化財という遺産を通して人間の歴史と環境の関連を解明する」ことを掲げている。また、一般的に文化財を扱う学問は「文系」分野だと思いがちだが、東京学芸大学では「理科教育」に属しているという点が大きな特色となっている。その設立の背景には当時の「日本文化財科学会」の構想を強く引き継いでいるそうだ。

二宮先生「創設の際は、日本文化財科学会がイメージにありました。学会誌が『考古学と自然科学』というもので、それが当時の視点となりました。本学の特徴を出す上での重要なポイントとして、考古学と自然科学という流れを意識的に作り出していました。

本学の特徴として、伝統的に埋蔵文化財関係の自然科学的な研究アプローチを行ってきました」

東京学芸大学キャンパス

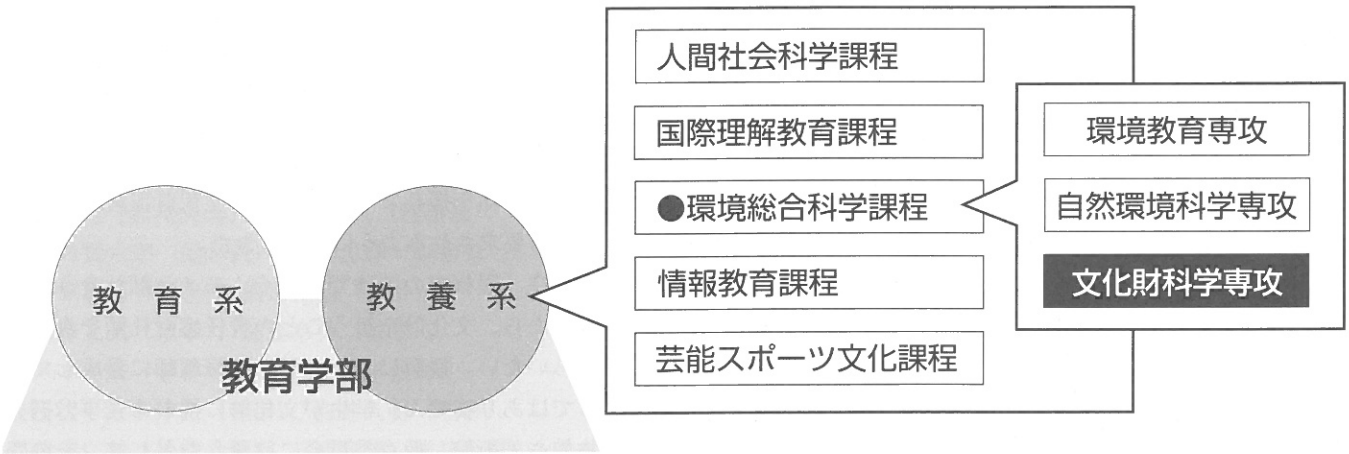
現在、文化財科学専攻の専任教員は考古学と自然科学の教授陣で構成されている。しかしこの基本枠にとらわれることなく、学芸大の幅広い学問を網羅する教養系の中で、歴史学、人類学、美術と連携をしている。非常に学際的な教育の場が展開しているようだ。

保存環境の分析から、美術工芸品、文書資料の修復までボーダーレスに幅広く、意欲のある学生はとことん学べる環境がある。学生は所属外の学問分野に積極的に関わっていき、不足している部分はゼミを立ち上げ、自発的に勉強をしている。学生主体の活動は時に教員を牽引するパワーもある。

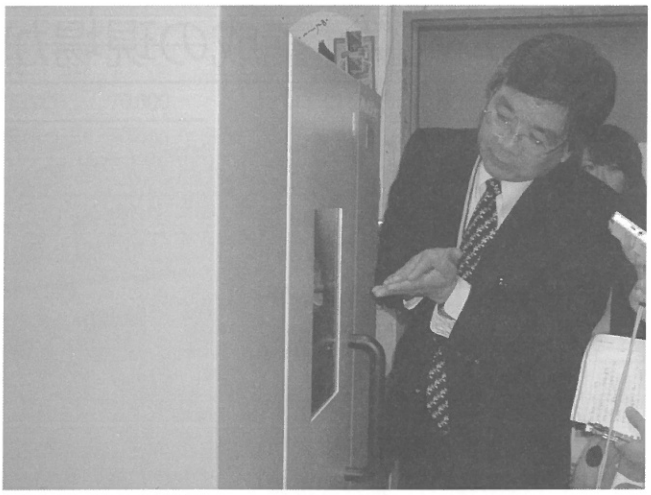
二宮先生「膨大な数の自主ゼミが開催されてますね。我々も把握していないくらいです。

また様々な分野に触れられる機会を学生に提供することが大切だと考え、色々な大学や研究機関と密接にお付き合いさせていただいています。現場に出たり、定期講演会を開催したり。外部の考古学の発掘現場とタイアップして、資料の分析や保存処理を行なったりもします。国文学研究資料館では保存環境のモニターを共同研究として行っています」

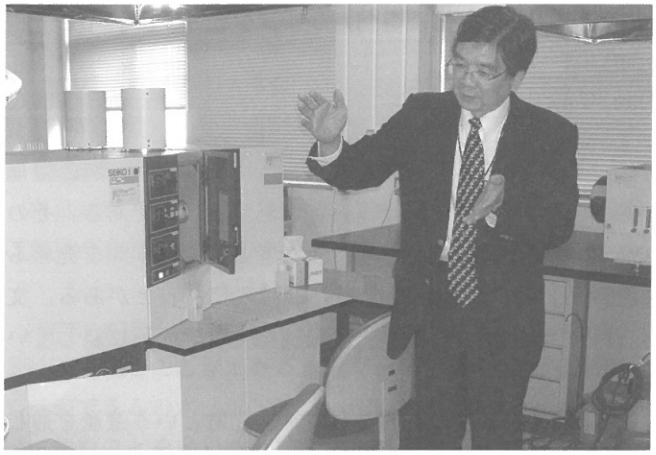
創設の発端となっている日本文化財科学会では、研究分野として「保存科学」「産地同定」「材質・技法」「年代測



ポータブル蛍光X線分析装置を説明する二宮修治先生



XRD：X線回析装置



アルゴン誘導結合プラズマ発光分光分析装置

絹本の模写　右が荒井 経先生

定」「古環境」が設定されている。当専攻では特に資料の分析科学に基づいた考古学研究や、保存環境の分析に力を入れている。

二宮先生「分析に対するこだわりというのはかなり強いと思います。最近はほとんど学生たちが（分析機器を）使用していますから。

最初のころは何を分析して、どういうことが分かるのかが分からず、卒論でまとめた頃に見えてくる。修士になると、自分のデータがおかしい、おかしくないと判断できるようになり、それぐらい、分析に関わる時間が長いと思います。何を明らかにしたいという目的があれば、分析データを見て判断できるという力が自然と身に付いていきます。こうした分析技術の習得も本専攻のうちの教育目標でもあります」

技法を学び、モノと触れ合う

扱う文化財は埋蔵文化財に留まらず、現在では美術工芸品、文書資料まで及ぶ。また技術を通して学ぶという点において、当専攻の必修授業には日本画の模写や、表具の制作などがある。

荒井先生「技法を学び、自分が実際に制作することによって得られる作品の理解というものを大切にしています。

分析の目的は何かということと同じ様に、模写の目的は何なのかということを考えていくと、方法が変わってくるわけですね。同じ一つのもののどこを模写して何を学びたいのか」

分析科学のアプローチだけでなく、技法的観点から資料をみる力も養う。このバランスが当専攻の大きな魅力であろう。

文化財科学専攻の立上げ以来、自ら模写したものを表具する表装実習という授業を行っていますが、半田昌規先生（半田九清堂社長）が担当されてから実際に絵画を修理しながら学ぶスタイルになっている。それは学生たちからの「理想的な修理の授業をやりたい」という意気込みが強かったからである。実習の授業は当然授業時間内には終らず、学生たちは夜遅くまで学校に残り、課題をこなしている。

授業で修理品を扱うようになって、文化財保護の理念の理解が一層要求されるようになってきた。

荒井先生「黒板での勉強ではなく、モノと触れ合う緊張感や経験から、文化財を扱うことの責任感や礼節を身に付けてもらいたい。授業によって学生を修理師に養成しているわけではありません。学生が文化財に携わる仕事、例えば博物館や美術館、教育委員会に就職したとして、その際

授業で修理中の絵画

様々な文化財を扱うことになります。考古学の知識だけに偏ることなく、模写や修理の授業を通して経験したことを、現場で活かしてもらいたいですね。本学は総合的、学際的な教育を掲げているので、学部教育だけでは純粋な専門性の到達には及ばないかもしれないけれども、逆に学生側はこの環境を利用して、広く経験を積んでもらえたらと思います」

――学生の意気込みが、新たなニーズを生んで、それに先生方が応える。文化財の化学分析から、修理まで。学ぼうと思えば、その環境がある東京学芸大学。武蔵野の緑の多い校舎には、たくさんの可能性がつまっている。

（レポーター：千葉麻由子）

学芸大学を訪問して

下村　香代子（筑波大学大学院）

３月18日、ニュースレターの取材として、東京学芸大学文化財科学専攻にお伺いしました。その中で強く感じたのは、文化財保存に携わる人材育成に向けた強い意識でした。

本専攻は考古科学を出発点とし、その伝統を大切にしながらも、他分野の研究室とも連携を図ることでより広範な文化財保存への対応もしています。開設から２０年経た現在も当初からの目標を維持しつつ、その視野をさらに拡げているところに、組織としての柔軟性を感じ、驚きました。単科大学であり、大学自体の規模は決して大きくありませんが、ボーダレスな研究室体系や学生主体の自主ゼミなど、専攻やカリキュラムの内外を越えて先生方と学生が主体的に文化財科学という学問に取り組んでおり、長所も短所も理解した上で教育大という特徴を最大限に活用していると感じました。このような柔軟性や主体性を可能としているのは、やはり文化財保存に携わる人間としてあるべき姿の実現を目指す高い意識が専攻全体で共有されているからであると思います。

本専攻は、文化財に携わる大学の研究機関のさきがけの存在です。かなりの後進ではありますが、自分たちも後に続けるよう、自らの研究や理想の実現に対しもっと貪欲になっていきたいと強く思いました。

NPO　JCP　平成20年度定例総会報告

去る６月８日、浅草公会堂において平成20年度定例総会が開かれ、19年度決算と事業報告、20年度予算・事業計画が行われました。19年度の経営は大変厳しいものでしたが、皆様に支えられて19のプロジェクト（内５プロジェクトが関西支部による）、２回の月例交流会、１回の海外スタディツアー、ラリス株式会社のプロデュースによるチャリティ展覧会を行うことができました。また、たくさんのご寄附のお蔭で年度当初にお約束したパンフレットも完成できました。１年間支えて頂き、本当にありがとうございました。役員・事務局一同心より感謝申し上げます。

日時：平成20年6月8日（日）10：00～12：15
会場：浅草公会堂
出席社員（維持会員）：三輪嘉六（理事長）、大林賢太郎（副会長）、西浦忠輝（副会長）、伊原惠司（理事）、沢田正昭（理事）、増澤文武（理事）、加藤章男（監事）、八木三香（事務局）、山岡寛（事務局）
委任状：荒木伸介（理事）、白井久明（理事）、伊達仁美（維持会員）、三浦定俊（維持会員）
オブザーバー：松本洋子（事務局）

Ⅰ．平成19年度事業報告／決算報告

Ⅰ－①　行った事業一覧

収入		支出	
会費・寄付	6,642,133	事務管理費	14,699,946
受託事業収入	28,761,697	受託事業費	25,001,320
自主事業収入	2,735,026	自主事業費	2,258,516
情報・広報活動収益	21,929	情報・広報活動費	195,213
合計	38,160,785	合計	42,154,995
その他収入	7,947,829	その他資金支出	7,637,019
総計	46,108,614	総計	49,792,014
当期収支差額			▲3,683,400
前期繰越収支差額			5,997,042
次期繰越収支差額			2,313,642

P.８　表参照

Ⅰ－②　決算報告

○「芸能人の多才な美術展」チャリティーボックスへの寄付金：￥115,133円

○パンフレット作成の寄付

寄付収入		支　出	
19年度	132,000	デザイン制作①	70,000
20年度	100,000	デザイン制作②	30,000
		印刷	126,000
計	232,000		226,000

※収入のうち、132,000は19年度寄付収入に含む
　100,000は20年度4月以降に尾立和則氏より寄付
※支出のうち、印刷費の126,000は20年度に支出

③寄附いただいた方のお名前

ラリス株式会社　代表取締役社長　松岡　久美子様
株式会社　文化財保存　様
株式会社　修美　様
油絵保存修復　たけのした工房　竹ノ下　磨須子様
株式会社　宇佐美修徳堂　様
株式会社　光影堂　様
伝世舎　様
株式会社　パレット　長谷川　雅啓様
株式会社　明治クリックス　吉川　博幸様
株式会社　文化財ユニオン　千葉　博之様
芦田　彩　様　　安藤　智之　様
大林　賢太郎　様　　尾立　和則　様
君嶋　隆之　様　　倉田　治彦　様
坂本　久彌子　様　　佐藤　隆明　様
白井　久明　様　　塚尾　富子　様
難波田　英子　様　　根元　則男　様
畑野　経夫　様　　奈良　真一　様
増澤　文武　様　　増田　勝彦　様
西浦　忠輝　様　　三浦　定俊　様
八木　三香　様
他　個人９名　　（アイウエオ順）

Ⅱ．平成20年度　事業計画/予算

以下の事業計画案・予算が提示され、承認されました。

Ⅱ－①　事業計画

(1)　委託（依頼）事業

①東京国立博物館　マット新調、帙製作事業
②水中文化遺産の保存と活用のためのネットワーク構築
③装こう分野の修復全般にわたる教科書作成作業
④染織品修理
⑤学会事務局委託事業
⑥三木合戦図修復事業（関西支部）

(2)　自主事業

①文化財保存修復専門家養成実践セミナー
②月例交流会、ワークショップ
③ヨルダン世界遺産・遺跡　スタディーツアー

Ⅱ－②　平成20年度予算

収　入		支　出	
会費・寄付	8,791,716	事務管理費	11,056,940
受託事業収入	20,659,743	受託事業費	16,649,769
自主事業収入	10,325,000	自主事業費	9,715,750
情報・広報活動収益	21,000	情報・広報活動費	375,000
		借入金返済	2,000,000
合　計	39,797,459	合　計	39,797,459
当期収支差額			0
前期繰越収支差額			2,313,642
次期繰越収支差額			2,313,642

Ⅲ．会員からのご意見

当日出席した会員から、JCP運営に関する下記のようなご意見を頂きました。

「NPOというのは、他の組織の形態では解決し得ないことに取り組むことができる組織であると思う。NPOを使って何ができるのか、NPOでしか出来ないことは何か、という根本的なことを会員へ向けて示すべきである。個人個人は何ができるか、ということを示しつつ、解決しなければならない課題を共有することで、会員のモチベーションを上げていかなければならない。我々が何をしようとしているのかということが見えなければ、会員のモチベーションもあがらないのではないか、そのためにもっとコミュニケーションをとって行かなければならない」

Ⅳ．事業報告会

平成19年度に行った事業から主な事業を選び、担当者に発表して頂きました。

・「東京国立博物館　マット新調・帙製作事業」
　東京国立博物館　修理作業支援補助技術者
　山田祐子、中安知佳
・「切幡寺仁王像修理」　愛知仏像修復工房　横川耕介
・「東本願寺修復設計業務」　関西支部事務局長　山岡寛

〈表〉　平成19年度特定非営利活動に係わる事業報告

平成19年４月１日から　平成20年３月31日まで

事業名		内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数
1	東博額・マット新調作業	修復家を目指す大学院以上の学生に対し、東博の支援技術者の指導の下で実践的に学んでもらう。	通　期	東京国立博物館	会員2名
2	東博にて修復作業支援	展覧会展示物の掛け軸等応急修理に会員技術者を派遣	19年4月、7月	東京国立博物館	会員1名

事業名		内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数
3	水中文化遺産の保存と活用のためのネットワーク構築～鷹島海底遺物を中心として～	日本財団、松浦市の助成により、鷹島を中心とした水中考古学のネットワークを構築するため、日本全国各自治体に呼びかけ、水中文化遺産担当者講習会を開催。また埋蔵文化財／考古遺物保存従事者の労働環境に焦点をあてた「埋蔵文化財／考古遺物保存技術者講習会」を開催	19年7月、12月	長崎県松浦市鷹島町	会員8名 非会員7名
4	装こう分野の修復全般にわたる教科書作成作業	文化財保存担当者、研究者、教職にある者等外部の関係者への参考資料として、正確かつ十分な内容の情報を提供し、また、技術者自身の指標ともなりえるグレードのテキストの編集企画とコンテンツを提供する。	通　期	会員の自宅その他	会員5名
5	切幡寺仁王像修復事業	徳島県切幡寺の仁王門改修工事にあわせ、木造金剛力士像の修復を行う。	17年12月15日～19年8月31日	愛知仏像修復工房	会員3名
6	甲斐市幟旗保存修理	甲斐市教育委員会の依頼により甲斐市在住個人所有の江戸期幟旗２枚を保存処置	19年4月27日～20年3月1日	㈱半田九清堂	会員1社
7	東京駅レリーフ養生作業	旧東京駅舎解体に伴い、壁画レリーフを保存するため養生作業に会員を派遣	19年9月19日～19年10月20日	東京駅	会員2名 非会員4名
8	高野山東京別院絵馬調査	雅楽古儀研究会からの依頼。港区にある高野山東京別院所有の江戸期絵馬調査の際の移動補助と状態調査	19年12月19日	高野山東京別院	会員2名 非会員2名
9	宗教団体所有曼荼羅デジタル再製画像制作事業	宗教団体の教祖の筆による曼荼羅の保存について相談され、複製を作成することを提案。大日本印刷に委託して複製を作成	20年1月～3月	大日本印刷	会員2名
10	西伊豆調査会事務請負	ニール号の調査を行っている西伊豆調査会の事務局引き受け	通　期	本部事務局	
11	パイロットコーポレーション資料室環境調査	ｈ15にポスターの応急修理をしたパイロットコーポレーションから資料室の総合的環境調査の依頼。調査報告書を作成	19年5月22日	パイロット平塚工場内資料室	会員2名
12	個人所蔵品環境調査		随　時	個人宅	会員2名
13	技術者紹介	修復技術者を紹介して欲しいという電話での照会に応じる	随時　5件	当機構事務局	会員5名
15	臼杵市磨崖仏保存処理	東文研からの委託事業臼杵応急修理	通　期		会員数名
⑯	東本願寺修復設計業務	障壁襖絵の修理にするに当たり適正業者の選定のための標準仕様書の策定	通　期	東本願寺	会員4名
⑰	大覚寺安井堂障壁画	障壁画の修理		大覚寺	会員2名（修理監督）
⑱	愛知県美術館収蔵品調査	愛知県美術館の収蔵品を調査		愛知県美術館	会員延べ12人
⑲	高麗美術館	本の綴じ直し		高麗美術館	会員1人
a	月例会	毎月テーマを変えて文化財に関わる講演会、ワークショップを開催。会員同士の情報交換を図ると同時に、社会一般にも広報し、支援機構の活動を知ってもらう場とした。	「油彩画修復の変遷－修復家の視点から見た過去･現在･そしてこれから－」19年10月27日	台東区生涯学習センター	講師：山領まり氏、出席者：30名
			「文化財と保存材料～その考え方～」１９年12月8日	東京しごとセンター	講師：増田勝彦氏 出席者：48名
			埋蔵文化財／考古遺物保存技術者講習会	鷹島埋蔵文化財センター	講師：増澤文武氏、今津節生氏、比佐陽一郎氏、植田直見氏、村田忠繁氏、出席者：10名

※○は関西支部事業

事業名		内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数
b	韓国世界遺産スタディツアー	専門家講師と共に、韓国世界遺産の保存修復現場、国立中央博物館、文化財研究所などを見学。	19年9月15日～18日	景福宮、華城、京畿道博物館、文化財研究所、公州国立博物館、大田、国立中央博物館、三ツ星美術館等	引率：澤田正昭氏／西浦忠輝氏／張大石氏参加者：20名（講師、スタッフ含む）
c	ニュースレター発行	「NPO JCP NEWS」No.16～No.17発行	通期	当機構事務局	4人
d	新・芸能人の多才な展覧会	文化財保存支援を目的としたチャリティー展覧会に、共催者として協力	19年4月～12月	全国各会場 第1会場； 東京　憲政会館 第2会場； 呉市そごう呉店 第3会場； 盛岡市　川徳田尾や門戸ホール 第4会場； 三重県　近鉄百貨店 第5会場； 大阪 エキスポランド	入場者数 約79,000人
e	パンフレット発行				非会員1名、会員2名
後援	19年10月1日	文化財保存修復学会 公開シンポジウム「文化財の保存と修復－博物館の役割と未来」	19年10月28日（日）		
	18年9月28日	東北芸術工科大学　文化財保存修復研究センター 「第2回文化遺産防災サミット・文化遺産防災フォーラムin大阪2007」	19年10月21日（日）		

会員の声

「JCPインターンを終了して」

下村　香代子（筑波大学大学院芸術研究科）

私がこちらのJCPでインターンとして勉強させていただくようになって、10カ月になりました。改めて考えてみますと、もっと前からお世話になっていたような、反対にあっという間であったかのような不思議な気持ちになります。おそらく、この10カ月間が非常に多くのことを学ぶ充実したものであったことが、このように相反する不思議な感覚をもたらしているのだと思います。

未指定文化財の恒久的な保存体制の構築を研究テーマとして考えていた私にとって、未指定文化財の保存修復事業を実施しておられる当機構の活動は非常に興味深いものでした。ぜひその活動を間近で見たいと思い、学校の先輩である千葉さんを通じ半ば強引にインターンとして加えていただくことになりました。そのように加えていただきながらもできることは微々たるもので、講演会の書き起こしや資料コピーの合間に、事務局スタッフの皆さんの仕事をされる背中を見て学ぶばかりでした。

その中で、やはりインターンをする中で最も大きな経験であったのは、未指定文化財保存のマネジメントの現場を肌で感じることができたことです。一口で保存のマネジメントといっても、そこにかかる作業は膨大かつ複雑で、時には理想と現実の折り合いをつけるシビアな作業も必要であるということを知りました。将来的に、未指定文化財の保存体制構築に携わりたいと考えている私にとって、このような現実に触れる機会を得ることが出来たのは、今後の道筋を考えていく上で非常に大きな経験であると考えております。

また、文化財保存を研究する他大学の学生と交流する機会を得ることも出来たのも、こちらでの大きな経験のひとつです。それまでは、普段茨城の片田舎に籠もっているため、なかなか他大学の人達と接する機会がありませんでした。しかし、こちらにお世話になったことで、同じインターンの学生さんや近隣大学の学生さんと知り合い、研究や大学生活について様々な意見交換をすることができるようになりました。やはり、同じ立場で頑張っている人達の話を聞くのは刺激的で、話す度に自分も頑張らなければと気持ちを新たにすることが出来ました。彼らとのつながりはこれからも大切にしていきたいと考えており、このような出会いを頂けたことに対しても、深く感謝しております。

最後になりますが、これまで10カ月間、強引に押しかけてきた私を暖かく迎え入れ、ご指導してくださった事務局の方々には、本当に感謝しております。学校は卒業しますが、継続的に文化財保存の現場には関わっていきたいと考えておりますので、これからもどうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。今後は、もっと精進して皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

（2008. 3 月）

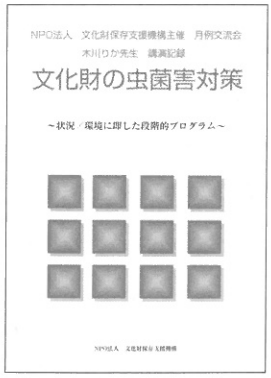
※ 筑波大学大学院では、NPOをインターンの受け入れ先として認めており、下村香代子さんは平成19年度インターンとしてJCPで活動してくれました。

書・籍・紹・介

NPO法人文化財保存支援機構主催　月例交流会
木川りか先生講演記録

『文化財の虫菌害対策～状況』

～環境に即した段階的プログラム～



木川　りか　監修
NPO法人　文化財保存支援機構　発行
2008年8月10日

頒布価格
会員：880円非会員：980円（税込み）
56ページ　B5判

本書は、平成18年に行われたNPO JCP主催月例交流会における木川りか先生の講演を元に、虫菌害対策についてまとめられたものである。

特に興味深く感じたのは、PART-1－Ⅱ・Ⅲで紹介されている、日本、そして海外の虫菌害防除の歴史についてである。虫菌害防除がどのように変化・発展を遂げたか、ということを知ることで、IPMのコンセプトを確立していく上で何が問題視されてきたのか、そして現在用いられている方法の利点はどこなのか、ということを把握することができる。

PART-1－Ⅴ「Preventive Conservation」では、さまざまな博物館の取り組みなど、具体例を用いて現在のIPMについて解説がなされているが、ちょっとした工夫やすぐに実践できそうな対策も紹介されており、早速実践してみよう、という気持ちになる。また、収蔵庫など管理された設備がない場所でのＩＰＭについて、レベル別に紹介しているPART-2「レベル別対処法」は、ぜひ参考にしたい。解説はやや少なめだが、詳細な一覧表が掲載されており、大学や家庭でも実践できるだろう。

文化財害虫やカビについては要点を絞って解説されているので、もっと詳しい情報を手に入れたい方は、紹介されている参考文献にも目を通す必要があるだろう。しかし、さまざまな殺虫剤の特徴や使い分けの仕方、取り扱い上の注意のほか、「ゴキブリは文化財害虫なのか？」といったような、専門書ではわかりづらいポイントに言及している部分も多いので、まさに入門書として一度目を通していただきたい。

（小川　絢子）

JCP事務局通信

◎NPOJCP主催・共催イベント案内

「文化人・芸能人の多才な美術展」～拡げよう文化の輪・芸術は世界を救う！～（Art for Heart 2008）

■出展作品：芸能人・政界の著名人92名の作品122点
■会　期：平成20年11月14日（金）～24日（月）
■時　間：10：00～19：00（最終日は18：00閉場）※閉場30分前までに入場してください。
■会　場：高崎LABI Gate（前橋市上小出町3-36-5 4F）
■入場料：一般　700円　中学生以下　無料
■主　催：「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会
■共　催：特定非営利活動法人　文化財保存支援機構
■後　援：文化庁／財団法人　文化財保護・芸術研究助成財団／群馬テレビ
■企　画：ラリス株式会社

◎関連団体イベント案内

1）第16回和紙文化講演会「生活をうるおす和紙」－手漉き紙の多彩な展開－

■日　時：平成20年11月30日（日）　10：00 ～ 17：00
■場　所：昭和女子大学グリーンホール
■主　催：和紙文化研究会
■定　員：250名
■参加費：一般　3,500円（機関誌「和紙文化研究」第16号及び講演要旨集を含む）
■参加申し込み：事前払い込みによる。郵便振替用紙に住所、氏名、電話・ファックス番号、専門分野もしくは所属を記入の上払い込み
振込み先；郵便振替口座　00170-8-402506
「和紙文化講演会」
■締め切り：11月20日（木）
■事務局：郵便110-8714　東京都台東区上野公園12-8
東京藝術大学 大学院美術研究科 保存科学気付
和紙文化講演会事務局　稲葉政満
東京藝術大学内FAX：050-5525-2505
特設携帯電話：080-6730-8581
（会期までの平日13：00～18：00）
※昭和女子大学へのお問い合わせはご遠慮下さい。

2）山梨県立博物館　シンボル展「信玄堤」

■日　時：平成20年12月17日（水）～
平成21年1月19日（月）まで
期間中の休館日；12/26～12/31、1/1、1/13
■観覧料：一般　500円／高校・大学生　210円／
小・中学生　100円
■場　所：〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1
TEL：055-261-2631
！！当機構が修復をコーディネートした安政期の幟旗（三社明神旗）が展示されます！！
■URL：
http://www.museum.pref.yamanashi.jp/index.html

ご入会ありがとうございました。

（平成20年10月1日現在入会者数）

■理　　事　　8名
■登録会員　　174名
■学生会員　　25名
■監　　事　　1名
■専門評価委員　　1名
■評 議 員　　1名
■賛助会員　　30件
■維持会員　　9名
■一般会員　　87名

株式会社　宇佐美松鶴堂
株式会社　岡墨光堂
桂文化財修理工房
財団法人　元興寺文化財研究所
株式会社　京都科学
京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター
共同精版印刷株式会社
共和コンクリート工業株式会社
有限会社　黒田工房
国富株式会社　長崎営業所
株式会社　芸匠
株式会社　光影堂
有限責任中間法人　国宝修理装こう師連盟
株式会社　坂田墨珠堂
株式会社　修美
宗教法人　正法院
株式会社　東都文化財保存研究所
日本通運株式会社　美術品事業部
長谷川　聡
株式会社　半田九清堂
百元　節
株式会社　富士海洋土木
株式会社　フレンドトラベル
有限会社　文化財修復技術研究所
株式会社　文化財保存
溝川商店
山領絵画修復工房
他　個人3名
（アイウエオ順　敬称略）

NPO JCPの活動に参加してみませんか？

■**登録会員**：年会費　7,000円
文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。
登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。

■**一般会員**：年会費　5,000円
この法人の目的に賛同し、支援する個人。

■**賛助会員**：年会費　一口50,000円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

■**学生会員**：年会費　3,000円
大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。

会員特典　・季刊情報誌の送付
・講演会/研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、下記のファックス、お電話、メールにて申し込み用紙をご請求下さい。おり返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申し込みができます。

TEL. 03-6770-1682　FAX. 03-6770-1683
E-mail：jimukyoku@jcpnpo.org
URL：www.jcpnpo.org

※この他にも、随時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

・郵便振替　00120−4−10545　NPO JCP
・三菱東京UFJ銀行　四谷三丁目支店
普通預金　3960340
特定非営利活動法人　文化財保存支援機構
理事　三輪嘉六
・みずほ銀行　根津支店
普通預金　1727893
特定非営利活動法人　文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS
第18号
2008年10月30日発行
特定非営利活動法人　文化財保存支援機構
〒110-0008
台東区池之端4-14-8　ビューハイツ池之端103号
TEL：03-6770-1682　FAX：03-6770-1683
E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org
URL: www.jcpnpo.org
関西支部
〒603-8123
京都市北区小山下花ノ木町35-6
TEL：075-334-8450　FAX：075-334-8451

〈理　　事〉
三輪 嘉六（理事長）
大林 賢太郎（副理事長）　西浦 忠輝（副理事長）
伊原 惠司　白井 久明　増澤 文武
荒木 伸介　澤田 正昭
〈本部事務局〉
八木 三香（事務局長）　松本 洋子
〈関西支部事務局〉
山岡　寛（事務局長）　加藤 亜沙子
〈編集協力〉
嶋根 隆一（伝世舎）